

磨いた技術 存分に発揮

第9回徳島音楽コンクール

第9回徳島音楽コンクール(徳島文理大主催、徳島新聞社共催)が7日、徳島市の徳島文理大で開かれた。音楽を学ぶ子どもから大人まで全国の288人12組が出演。ピアノや声楽、木管楽器など8部門で審査が行われ、121人と4組が金、銀、銅の各賞に選ばれた。金賞受賞者35人と組のつち各部門の代表者と1組は、11月4日に同大むらさきホールで開かれる入賞記念コンサート第2部「グランドピアノ・デュオ」に出演し、第1席を目指す。出演する2人と1組の喜びの声と、コンクール審査員の総評・選評を紹介する。(笠井理・写真も)

弦楽器 高校
猪子 奈津子さん(18)
徳島市立高3年 徳島市



金賞受賞者に聞く

6回目の出場で念願の金賞を獲得し、「素直にうれしい。受賞を励みにもっと上達したい」と力を込める。母親はピアノ講師、父親と長姉がバイオリン、次姉がオボーエを演奏する音楽一家に育った。徳島市内の自宅には常に楽器の音が響き、4歳の頃からピアノの音を聴き、作曲家が曲に込めた技術や感情に「表現力」に感銘を受ける。自分自身の感受性を磨き、作曲家が曲に込めた思いなどを表現できるように練習に励んでいる。

コンクールで披露したのは「エッセンシャル」な要素が好き」といふセシル・フロコ

ピアノ作曲の「グランドピアノ協奏曲第1番第1楽章(長調)」。難易度の高いピアノを要する曲だが、伸びやかな音色を響かせた。夢はプロのバイオリニストとして活動すること。「敵い世間」と分かっているが、理想の演奏に近づける努力を積み重ねていく。指導してくれた先生方と肩を並べるくらいは音楽家になりたい」との目標を掲げる。緊張しやすい性格だが、「人前に立つのは大好き」とはにかむ。初の大舞台を前に「とにかく練習して自信を付けたい」といふ。弾きながら人の心を動かす演奏ができれば」と話す。

理想へ努力積み重ね